

滋賀大学教育学部後援会だより

CONTENTS

後援会会長・学部長等挨拶……	1
教育学部の現状と将来展望……	2～3
卒業式・入学式・入学試験の状況……	4～5
後援会支援活動……	6
大学の動き……	7
海外留学……	8
卒業生就職状況一覧……	9
後援会会計報告等……	10～11
行事・学年歴……	12
就職体験記……	13～19
寄附のお願い……	20

つるばみ

VOL.15

編集・発行

〒520-0862 大津市平津二丁目5-1

滋賀大学教育学部後援会事務局

Tel.077-537-7703

後援会会長挨拶

後援会会長 桑原 正樹



桑原後援会会長

後援会の皆さまにおかれましては、平素より後援会活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。この度、後援会会長を仰せつかりました桑原でございます。

長く続いたコロナ禍もようやく終わりを迎え、以前の日常が戻ってきたことを実感する一方で、教育をとりまく環境は大きく変化し学生には単に知識や能力の習得に留まらず、個々の児童・生徒に寄り添い、柔軟に対応できる指導力も求められるようになりました。このような中、後援会では課外活動支援、就職支援、施設設備支援などを通じて、学生が安心、充実した学生生活を送れるよう、また夢の実現に向けたお手伝いができるよう、大学と連携し取り組んで参りたいと思います。

会員の皆様におかれましてはこれまでと変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

学部長挨拶

教育学部長 久保 加織

皆様には、平素より滋賀大学教育学部へご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

本学部は、Society5.0時代の教員養成・研修機能の強化として、問題発見・課題解決的な学びを実践できる教員の養成、データサイエンスを活用できる教員養成・研修、ダイバーシティ教育の視点を備えた教員の養成に取り組んでおります。本年6月に文部科学省から「地域教員希望枠を活用した教員

養成大学・学部の機能強化事業」に採択され、入学前から一貫した教育データサイエンス（CD）活用と地域教員マインドの醸成を行い、地域が求める教員を養成します。2025年に教育学部と附属学校園（小学校）は創立150周年を迎えます。これからも新しい時代にふさわしい、地域の教員養成の中核を担う学部として、教育・研究活動の一層の充実に努めてまいります。今後とも皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

副学部長挨拶

総務担当 長谷川 武博

引き続き学部予算などを担当します。予算が減額され厳しい状況です。そのような中で、後援会費に助けられています。キャリア支援費ではキャリア支援教員を雇用させていただき、学生生活をきめ細やかにサポートさせていただいております。また、就職幹旋費では教職セミナーなどを開催させていただきます。心より感謝申し上げます。今後ともご指導ご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

学生・就職支援担当 芦谷 道子

今年度より、学生・就職担当の副学部長として、学業以外の学生生活全般（クラブ・サークル活動等）や教員採用試験支援、オープンキャンパスなどの広報支援、入試関連業務等に関わっております。コロナ禍が明け、通常の行事や学生交流の機会が戻ってきております。専門である臨床心理学の知見を活かし、豊かな学びの場の提供に心を尽くしてまいります。後援会の皆様には、引き続きご支援ご協力賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

教務担当 渡邊 暁彦

本年度、教務を担当いたします。後援会の皆様のご支援のおかげをもちまして、教室や学生共有スペース等において、デジタル環境が整いつつあります。それに伴って、さらなる質の高い高等教育を実現すべく、教職員一同、努力を重ねております。学生にとりましても、本年度より新たに卒業論文の電子提出が始まります。一方で、生成AIとの向き合い方など、これまでになかった新しい課題も生じています。これらの課題に真摯に取り組みつつ、引きつづき教育課程や教育内容の充実に尽くしてまいりますので、今後とも皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

副研究科長挨拶

太田 拓紀

大学院教育学研究科高度教職実践専攻（教職大学院）は、開設8年目を迎えました。「理論と実践の融合」のコンセプトのもと、多様化・複雑化する教育課題に対応できる高度な専門性を備えた教員を育成しています。今年度からは「教育データサイエンス人材育成プログラム」がスタートし、エビデンスに基づく教育政策・教育実践やICT活用環境の開発・整備等を学ぶことで、新たな価値を創造できる教員を育てていきます。引き続きのご支援、よろしくお願い申し上げます。



渡邊副学部長、長谷川副学部長、久保学部長、芦谷副学部長、太田副研究科長（写真左から）

教育学部の現状と将来展望

教育学部長・大学院教育学研究科長 久保 加織



教育学部の現状

今年度より教育学部長を務めております久保でございます。平成8年4月に滋賀大学に着任以来、食物学を専門として、教育・研究に携わってまいりました。来年には150周年をむかえる教育学部は、滋賀県をはじめ各地に優秀な教員を送り出し、地域社会の発展に貢献してきましたが、これからも教職に対する情熱と誇りを持ち、日々学び続ける力量ある教員の養成を進めてまいりたいと考えております。

国立大学法人をとりまく状況は厳しさを増しております。本年6月に国立大学協会理事会から「国立大学協会声明―我が国の輝ける未来のために―」が発表され、財政状況の悪化で限界をむかえているなかでも、輝ける未来に向けて国立大学は協働して取り組むと記されております。本学部でも、将来を構想し、検討を進めております。現状と合わせて報告させていただきます。

昨年5月8日、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染症法上の位置付けが5類となつてからは、授業、実習、課外活動ともにその実施において特に制限を設けず実施しております。授業以外の活動にも以前の活気が戻りつつあり、今年度も4月には新入生歓迎イベントである「さくら咲くツア―」を開催し、その後も「学内レガッタ」、開学祭（6月）、「紫雅祭」（11月）と開催してまいります。また、国際交流も実際の交流が再開しており、昨年度は、タイのチェンマイラジャパット大学での海外自主参加体験やオランダ大学のゾイド大学への派遣等が実現しました。今年度もさらに活発な活動を計画しております。ただ、感染症の影響は継続的にあり、対策・対応は継続しております。

教育学部では、Society5.0時代の教員養成・研修機能の強化として、①問題発見・課題解決的な学びを実践できる教員の養成、②データサイエンスを活用できる教員養成・研修、③ダイバーシティ教育の視点を備えた教員の養成に取り組んでおります。

①については、初等・中等教育で実践の充実が求められております

SDGs、STEAM教育への対応として、PBL科目として1回生必修科目の環境教育概論において食農について体験的に学ぶ授業を展開したり、4回生必修科目の教職実践演習において附属小学校と連携した知財創造教育の授業や滋賀県知事公室防災危機管理局の協力による防災教育に関する授業を実施したりしております。問題発見・課題解決的で教科を横断した学びを充実させ、将来、教員として未来の社会を構築する原動力となる子どもたちを導く力を身につけることを目指しております。なお、環境教育概論における食農体験授業で収穫した米は、学生が自宅に持ち帰って炊飯・試食に用いる以外に、北島酒造株式会社（湖南市）のご協力のもと、滋賀大学オリジナル日本酒「琶ぐくみ」の製造につながっております。昨年度からは、教育学部だけでなく、経済学部やデータサイエンス学部の学生も一緒にチームを組んで、学生自主企画「琶ぐくみプロジェクト」を進めてくれています。様々な企画を実施しておりますので、お目に留まりましたら幸いです。

②については、滋賀大学では全学として、「滋賀大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム」を進めています。文部科学省から、数理・データサイエンス・AI教育プログラムの「リテラシーレベルプラス」（2021年）に、「応用基礎レベル」（2022年）にそれぞれ認定されております。さらに、COVID-19の影響で加速された、初等・中等教育でのGIGAスクール

構想を踏まえ、Society5.0時代に活躍する教員の養成をめざす取り組みとして、「教育データサイエンス・スト養成プログラム」を2020年度から開始しており、現在までに7名を「准教育データサイエンス・スト」として認定しております。

③については、国際理解、特別支援、いじめ・不登校問題、幼小連携等の課題に関する知識を有し、初等・中等教育段階においてこれらを教育する能力を有することを基本とし、教育現場における複合的な教育課題を解決することができる人材の養成を目的とした「ダイバーシティ教育専門科目群」履修プログラムを今年度から実施しております。科目群には、講義と活動（体験）が含まれており、活動（体験）には滋賀大学教育学部附属音楽教育支援センター（愛称「おとさぽ」）での支援活動を位置付けております。

教育学部附属音楽教育支援センター（愛称「おとさぽ」）は、2020年10月に篤志により開設されたセンターで、障害児者を主な対象として、音楽教育プログラムの提供、実施、研究及び音楽活動の支援を行うことを目的としています。○特別支援学校や特別支援学級、障害福祉サービス事業所などに出向き、音楽教育プログラムを提供する「アウトリーチ事業」、○センター内新設のセッションルーム等で音楽療法や特別支援ピアノ教室の開講、コンサートや音楽のワークショップを実施する「インリーチ事業」、○音楽療法や音楽教育の指導者向け研修会

を実施する「指導者研修会」、○障害児者の音楽教育についての先端研究、パイロットプログラム成果を国内外に発信する「パイロットプログラム」の4事業を柱に活動しています。昨年度は、音楽療法の拠点形成に寄与したことが評価され、日本音楽療法学会第3回日野原賞を受賞しました。また、文化庁委託事業「令和5年度障害者等による文化芸術活動推進事業」を受けることができ、県内の特別支援学校・特別支援学級への訪問コンサートも実施しています。障害のある方やご家族・支援者にとどまらず、今後音楽を真ん中に、誰もが楽しく参加・交流できるインクルーシブな活動を目指します。

教育実習は、附属学校園と地域の公立学校で実施しています。公立学校での実習は、現在、大津市、栗東市、守山市、草津市で実施しており、さらに、4回生では、自治体・企業等との連携・参画を得て教師インターンシッププログラムのひとつとして「発展実習」を実施しております。3回生までの実習を地域公立校で実施した学生が同じ実習校において発展実習を実施するケースだけでなく、附属学校園で実習を行った学生が地域の公立学校で発展実習を実施するケースもあり、様々な学校園での実習を経験することができ、体制をとっております。また、地域の学校園である石山小学校と幼稚園において学生がサポーター活動をする石山プロジェクトにも毎年、数十名が参加して教員としての

実践力の向上を図っています。一方、昨年度から、教師力養成サークル「教師のたまご」が始まりました。グループA・授業力UP（1回生・4回生対象（通年））、グループB・受かる力UP（翌年教授を受験する3回生及び2回生対象）、グループC・即戦力UP（4月から教壇に立つ4回生対象）といった活動を行っています。

昨年度の滋賀県の採用試験は前年度の合格高率をさらに上回る結果を出すことができました。さらに、他府県の教員採用試験合格者も増加したことは明るいニュースの一つです。教員採用にかかわって、12月の滋賀県教員試験説明会は、一昨年から、学生が実行委員会を組織し、教育委員会人事主事とやり取りをしながら開催準備から実施までを行っております。学生が主体的に自身の将来について考える機会になっていると考えております。

教育学研究科の現状

教育学研究科には現在、学校教育専攻（修士課程）と高度教職実践専攻（教職大学院）があります。が、教員養成と教員研修機能の高度化をさらに進めるため、令和3年度より学校教育専攻の学生募集は停止しております。一方、教職大学院では、学校経営力開発コース（現職教員対象、学校経営の実践的な力量をもつ地域全体の学校改善を促すトップリーダーの育成）、教育実践力開発コース（現職教員対象、学校の課題を実践的に解決

できる高度な力量を備えたミドルリーダーの育成）、授業実践力開発コース（主に学部新卒学生対象、確かな教科指導力と学級経営力、新たな学びを創造できる教員の育成）、ダイバーシティ教育力開発コース（子どもの多様なニーズに応じた成長・発達を支援できる専門的な力量の育成）での4コース体制で教育を行っています。教職大学院では、研究者教員と実務家教員が協働して授業を実施するとともに、理論と実践の往還を図りながら高度な実践力を身につけるために、滋賀県下の小中学校や県総合教育センター、附属学校園等において様々な実習も実施しております。

2022年に、文部科学省から「デジタルと掛けるダブルメジャー事業（Xプログラム）」に採択され、教育のDX化とGIGAスクール構想に対応する地域リーダー教員を輩出する「教職大学院 教育データサイエンス人材育成プログラム」を実施しており、所定の単位取得により専修免許状に「教育データサイエンス」が付記されます。

さらに、本学は、兵庫教育大学連合学校教育学研究科（博士課程）の構成大学でもあります。現在の滋賀大学配属学生数は10名です。

教育学部創立150周年と新たな試み

今年6月、文部科学省から「地域教員希望枠を活用した教員養成大学・学部の機能強化事業」に採択され、取組「教育データサイエンス／ICT/DX活用による地域教育の

転換と地域マインドの情勢」を開始しました。Global O時代の教員養成・研修機能の強化として取り組んでいるデータサイエンスを活用できる教員の養成と、少子化による子ども達の社会性の欠如や教師の孤立、地域愛を持った教師の確保への対応を目指します。本事業では、入学前からデータサイエンスの意義や地域文化を理解させ、入学後に、滋賀大学教育学部がこれまでも育成を推進してきた力（確かな教育実践力、ダイバーシティ教育力、環境教育力）をベースに、教育データサイエンス／ICT/DX活用力の強化と地域教員マインドの醸成を行い、地域が求める教員の養成を進めます。

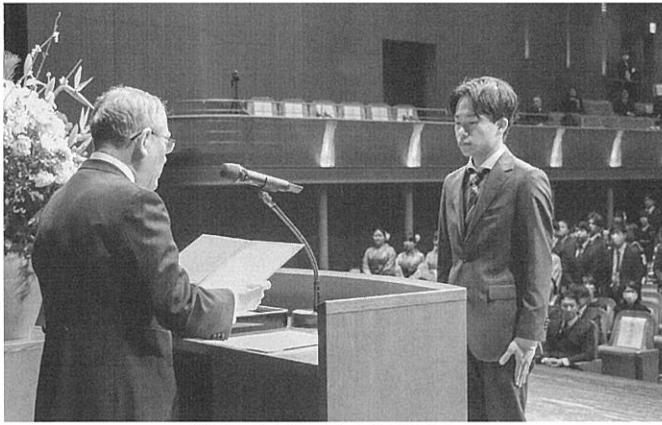
1875年に滋賀県に小学校教員伝習所が設立したのが教育学部と附属学校園（小学校）の歴史の始まりです。2025年には創立から150周年を迎えます。これを良い契機とし、卒業生と大学・附属学校園の繋がりを深めていきたいと願っております。今年度は教育学部150年史の編纂を進めるとともに、11月の学園祭に合わせてプレイベントを実施する計画を進めております。

創立150周年を機に、新しい時代にふさわしい教育学部を目指し、努力を重ねてまいります。後援会の皆様には今後ともお力添えのほど、どうぞよろしくお願いいたします。

令和5年度 卒業式

3月25日(月)、滋賀大学卒業証書・学位記、大学院研究科学位記、特別支援教育専攻科修士証書授与式を大津市びわ湖ホールにて挙行了しました。式典は、2部制(1部は教育学部・大学院教育学研究科・特別支援教育専攻科、2部は経済学部・大学院経済学研究科・データサイエンス学部・大学院データサイエンス研究科)で開催し、出席できなかった方に向けてライブ配信を行いました。

今年度は、教育学部223名、大学院教育学研究科修士課程1名、大学院教育学研究科高度教職実践専攻(教職大学院)



学位記を授与される酒井さん

25名、特別支援教育専攻科8名ほか、経済学部430名、大学院経済学研究科博士前期課程25名、大学院経済学研究科博士學位記授与者2名、DS学部卒業生97名、大学院DS研究科博士前期課程46名の合計859名が本学を巣立ちました。

竹村学長から学部、大学院、専攻科の代表者への卒業証書等の授与に続き、学長式辞で卒業生へはなむけの言葉が贈られたのに続いて、在校生代表の教育学部3回生 青谷淑江さんからお祝いと感謝の言葉、また、卒業生代表の教育学部卒業生 松木丈音さんから今後の決意と教職員、在校生への感謝の言葉が述べられました。

教育学部学校教育教員養成課程

代表 酒井 翔太さん

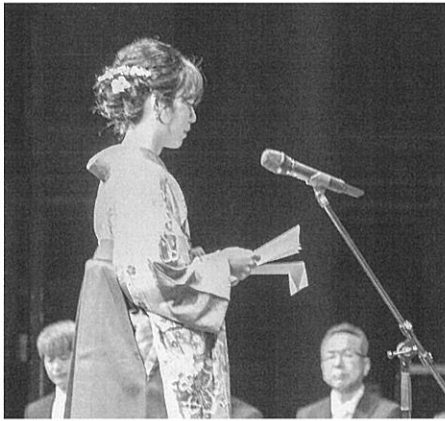
大学院教育学研究科教職修士

(専門職) 高度教職実践専攻

代表 林 正人さん

特別支援教育専攻科

代表 田中 清佳さん



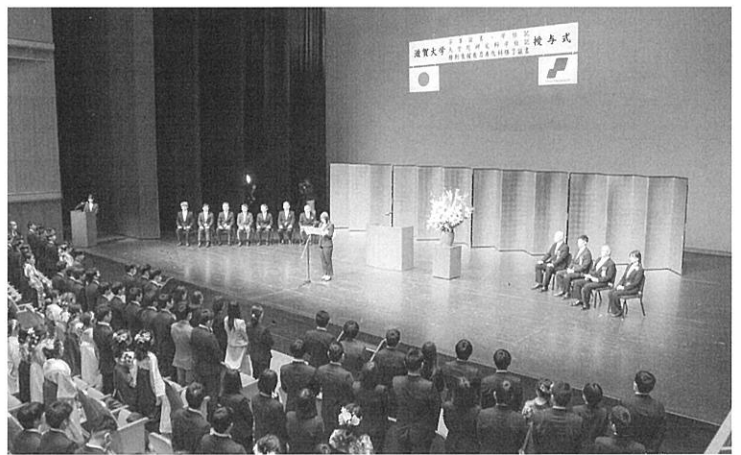
答辞を述べる松木さん

学業成績優秀者学長賞表彰者

教育学部卒業生

松木 丈音さん

また、学業成績優秀者学長賞表彰も行われ、教育学部、経済学部、データサイエンス学部において在学期間中に最も優れた学業成績を挙げた3名に、竹村学長から表彰状と記念品が贈られ、その努力と成果を称えました。



会場の様子(びわ湖ホール)

令和6年度 入学式

4月4日(木)、令和6年度滋賀大学入学式を大津市びわ湖ホールにて挙行了しました。今年度は、教育学部236名、大学院教育学研究科専門職學位課程29名、特別支援教育専攻科7名、経済学部510名、データサイエンス学部108名、大学院経済学研究科博士前期課程30名、大学院経済学研究科博士後期課程2名、大学院データサイエンス研究科博士前期課程53名、大学院データサイエンス研究科博士後期課程4名



「誓詞」を読み上げる高本さん

の総計979名が、学生生活の新しいスタートを切りました。入学式は2部制（1部は教育学部・大学院教育学研究科・特別支援教育専攻科、2部は経済学部・DS学部・大学院経済学研究科・大学院DS研究科）で開催し、出席できなかった方に向けてライブ配信を行いました。

式典は、歌手としてオペラなどでも活躍する教育学部・渡邊史准教授の学歌独唱から始まり、入学者宣誓、学長式辞、来賓の祝辞、在学生による歓迎の辞、役職員紹介の順で進行了しました。入学者代表 教育学部 入学生高本彩葉さんから「誓詞」が読み上げられ、続いて竹村学長から「大きな変化の時代は、不安の時代であるとともに、可能性の開けた時代です。滋賀大学の中期目標のキーワードは未来創生大学です。世界が未曾有の変化に見舞われなか、皆さんが滋賀大学での学びを通して、未来を切り拓く人材に育ってくれることを願っています。」と



会場の様子(びわ湖ホール)



渡邊史准教授の学歌独唱

式辞がありました。

新入学生の皆様が今後、本学で勉学に励み、充実した大学生活を送ることを願っています。

令和6年度 入学試験の状況

教育学部

課 程	定員	志願者	受験者	合格者	入学者
学校教育教員養成	230	777	553	256	236

大学院教育学研究科

専 攻	定員	志願者	受験者	合格者	入学者
高度教職実践	35	33	33	29	29

特別支援教育専攻科

専 攻	定員	志願者	受験者	合格者	入学者
障害児教育	30	9	9	9	7

大学全体

教育学部	236
経済学部	510
データサイエンス学部	108
大学院教育学研究科	29
大学院経済学研究科	32
大学院データサイエンス研究科	57
特別支援教育専攻科	7
入学者合計	979

(経済学部の入学者に政府派遣留学生1名を含む)

教育学部都道府県入学者数

北海道	1	宮城県	1	秋田県	1	千葉県	2	東京都	1	新潟県	1	石川県	4	福井県	7
山梨県	1	長野県	3	岐阜県	7	静岡県	3	愛知県	2	三重県	3	滋賀県	97	京都府	32
大阪府	25	兵庫県	15	和歌山県	4	鳥取県	1	岡山県	6	広島県	3	徳島県	3	香川県	4
愛媛県	2	佐賀県	1	大分県	1	鹿児島県	1	沖縄県	2	その他 高卒認定試験	2				



(左から谷さん、徳田学部長) *呉屋さん、柴原さんは欠席

後援会支援活動

後援会学生表彰

令和6年3月27日(水) 後援会学生表彰授与式を挙行了しました。

後援会学生表彰は、本学部・大学院及び特別支援教育専攻科の学生を対象に体育・文化活動等に関し顕著な成果を挙げ、大学の名誉を高めたものに対して、表彰することを目的にしております。表彰者には、後援会より表彰状及び副賞が授与されました。

表彰者

教育学部4回生 呉屋 広樹

第39回オーブン・トーナメント
ウエイト制全日本空手道選手権大会 一般男子中量級 優勝

第2回全日本学生フルコンタクト空手道選手権大会 男子中量級 準優勝

教育学部4回生 谷 風友菜

学生対抗SFプロトタイプینگハッカソン Electric Sheepにおいて優勝

教育学部3回生 柴原 茉央

令和5年度SUBARU日本カヌースプリント選手権大会 成年女子カヤックペア500m 第3位

令和5年度後援会理事会

令和5年5月13日(土)

議事 役員改選(案)、4年度決算、5年度予算(案)、大学関係報告(授業関係・学校行事関係等)

令和5年11月11日(土)

議事 学部の現況、授業・教育実習、就職状況、学校行事等、会計中間報告等

令和6年3月23日(土)

議事 学部の現況、学生表彰、役員改選(案)、5年度決算、6年度予算(案)、大学関係報告(就職状況・入試状況等)

ヨット部(新救助艇の購入)

この度は、新救助艇の購入援助をして頂きました皆様に現役部員一同心より感謝申し上げます。現在滋賀大学教育学部のヨット部には16名の部員が所属しており、週に3日の活動を通して、日頃から地域の風土への愛着をより強いものにしていきます。「自立した部活の実現」を目標に夏季に行われる複数の大会に積極的に参加する予定です。

後援会の皆様には、練習時のコーチングや備品の資金援助など、平素から私たちの活発な部活動



のために多大なご支援を頂いております。部活動を行うためには、安全面に考慮して救助艇を常に出来る状態にしておくなくてはなりません。救助艇を動かすには船舶免許が必要で、人数も必要となり、私たちが部員のみでは補いきれないことがあります。そのため後援会の皆様には救助艇を出艇する面においても、日頃からサポートして頂いております。

そんな中で旧救助艇は、使用年数が長いため劣化が進んでおり、バッテリーがすぐ上がってしまう状況でした。今回、更新が必要となっていた救助艇の新規購入にもご後援頂き、前年度よりさらに部活動の可能性を広げることができ、嬉しく思っています。

今年度はすでに7人の新入生が入部し、5月始め頃から活動に参加してもらおう予定です。これからも滋賀大学教育学部ヨット部の活動へのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

また、先日留学生のエルさんに試乗会に無事きてもらい、ヨットを楽しんでもらえました。連絡の仲介などのご支援をありがとうございました。

男子バスケットボール部

(タイマーの購入)

この度はタイマーの購入援助をして頂き、誠にありがとうございます。



滋賀大学男子バスケットボール部には現在21名が所属しておりますが、長年使用しているタイマーの劣化により、時間が途中で表示されなくなること練習や試合に影響が及んでいました。今回購入して頂きましたタイマーは、時間を計測したり点数をカウントしたりとバスケットボールを行う際に必須の物品であります、高価なものの故金銭面に余裕がなく購入の目的が付いていなかったため、この度のご支援を大変嬉しく感じております。

できるプログラムタイマーやストップウォッチの機能等もあり、様々な練習や試合に対応することができました。非常に機能性の高いタイマーを頂きました。それにより、主にタイマーを使用するマネージャーの負担が軽減し、またプレイヤーにとっても表示がとても見やすくなり円滑にプレーすることができるようになったことで、練習の質が高まったように感じます。

4月になり新しく部員が増え、週3回体育館で元気に活動しております。個々の技術を磨き、そしてチーム全体としての力を高められるように一人ひとりアイデアを出し合い、切磋琢磨して日々練習に取り組んでおります。厳しい中にも楽しさがある活動をする中で、学年や役職の壁を感じさせない雰囲気があるところが特徴的な部です。今年はより一層練習に力を入れ、リーグ昇格を目標にして頑張っております。

こうして私たちが活動できるのは、後援会の皆様をはじめ、私たち男子バスケットボール部にご協力を下さり応援してくださる皆様のおかげです。心より御礼申し上げます。今後とも、支えてくださっている皆様に対する感謝の気持ちを忘れずに、日々精進してまいります。

今回購入して頂いたタイマーは、部員全員で大切に扱っていく所存です。この度はご支援本当にありがとうございました。

大学の動き

保護者懇談会の開催

11月11日(土)教育学部において、学生の保護者に大学における授業や大学生活の様子などへのご理解を深めていただく機会として、保護者懇談会を開催しました。

保護者懇談会は、今年度も昨年度と同様に対面とオンラインのハイブリッド形式で実施、あわせて約130名の参加がありました。

保護者懇談会では、徳田学部長、鈴木・中村副学部長より、教育学部の現状、授業・教育実習、就職状況・就職支援体制等について報告の後、保護者からの県内外の教員採用試験の近況や支援状況等の質疑に回答を



保護者懇談会の様子

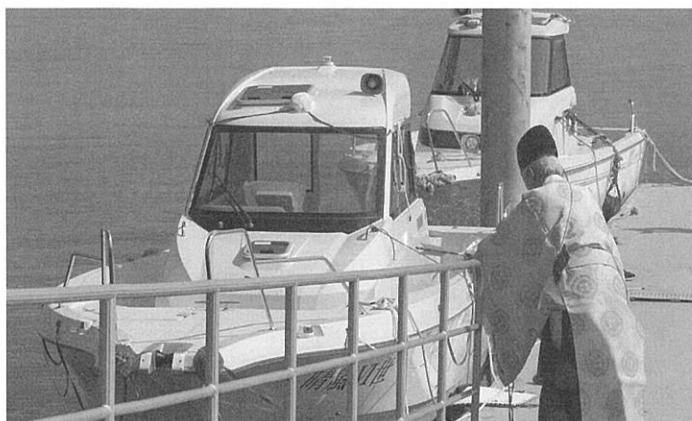
行いました。

懇談会終了後、対面で参加の保護者には、同日キャンパスで行われていた紫雅祭(学園祭)をご覧いただきました。

救助艇の進水式

教育学部後援会や教育学部ヨット部OB会等からご支援をいただき、新たな救助艇を購入し、3月8日(金)に御殿ヶ浜艇庫にて進水式を執り行いました。

今回進水した艇は、老朽化した旧艇に代わる救助艇で、より安全に練習やレースをするためのサポートをします。



進水式の様子

海外留学

オーストラリア研修

ディーキン大学（オーストラリア）

学校教育教員養成課程

3回生 犬島 沙耶さん



私は、2024年2月から3月の一か月間、オーストラリアのメルボルンで短期留学をしました。留学中は、ディーキン大学にある語学学校に通いました。学校では、レベル別に分けられたクラスで一日中オンライングリッシュの授業を受け、即興で話す練習やエッセイの書き方、文法事項の根本的な捉え方などについて学びました。またメインと

なる集大成のグループごとのプレゼンテーションでは、フリンダーストリート駅などの観光名所の歴史や文化などについて自国と比較しながら調査してまとめ、プレゼンテーションをしました。忙しい日々の中で、時間を見つけて話し合ったり、準備したりすることは大変でしたが、互いに支え合いながら聞き手を惹きつけるプレゼンテーションをつくりあげることができた大きな達成感を感じました。私は、短い期間の中で少しでも多く吸収して帰国できるように、ディスカッションの際には積極的に意見を出したり、みんなの思いをまとめたりしながら主体的に取り組みました。また、授業の他にも昼食時間に行われる英語を使ったアクティビティや食べ物など様々な文化に触れられるお祭り、豊富な教材を使って自主学習ができるスペースなどがあり、学びの機会や環境が充実していました。週末には、ツアーに参加したり、メルボルンの観光をしたりして楽しみました。メルボルンはとても美しい街で、アートやカフェがたくさんあり、現地の方もフレンドリーな人が多く、帰りたくないと思うくらい居心地の良い素敵な場所でした。

私が最も留学することを決断してよかったと感じるのは、ホームステイでの体験です。私のホームステイ先は、ホストマザーと中学生の女の子、高校生の男の子、犬が一匹という家族構成でした。同じ期間にベトナムからの留学生も来ていて一緒に過ごしました。初めはホストファミリーが話す英語が聞き取れず、自分の言いたいことも上手く伝えられなくて、特に最初の三日間はとてもしんどかったです。話す度に緊張して不安になりましたが、それでも諦めず自分から話しかけるようにしていました。ホストファミリーはとても優しく、私が理解できるまで何度も説明してくれたり、私の英語の間違いを指摘して、より良い表現やオーストラリアのスラングを教えてくださいました。日本人が自分だけという環境で、現地の方と生活を共にできたことはとても貴重な機会でした。夕食の時間が最も英語でコミュニケーションを取り文化について学べる時間だったので、なるべく外食を控え、コミュニケーションの機会を確保するよう心掛けていました。その日語学学校で学んだことや、オーストラリア、ベトナム、日本の三か国の食べ物、生活習慣、教育制度などの違いについて情報を交換することがとても楽しかったです。このホームステイでの経験が私の英語力、人間力を高めてくれました。分かったふりをするのではなくて、分からないと言う勇氣、自分からコミュニケーションを始めたこと、繋いだりすることの大切さを学びました。また、生活を共にする中で、生活リズムや考え方などたくさんの違いに直面しました。文化の違いを越えて、互いに尊重し合って生きていくというグローバル化が進む中で大切にしていくなことについて考える機会にもなったと思っています。

留学期間中、一緒に乗り越えた、滋賀大学の仲間や現地で知り合った友達との存在がとても大きかったなと思います。人は支え合うことで大きな力を発揮できるということを実感しました。

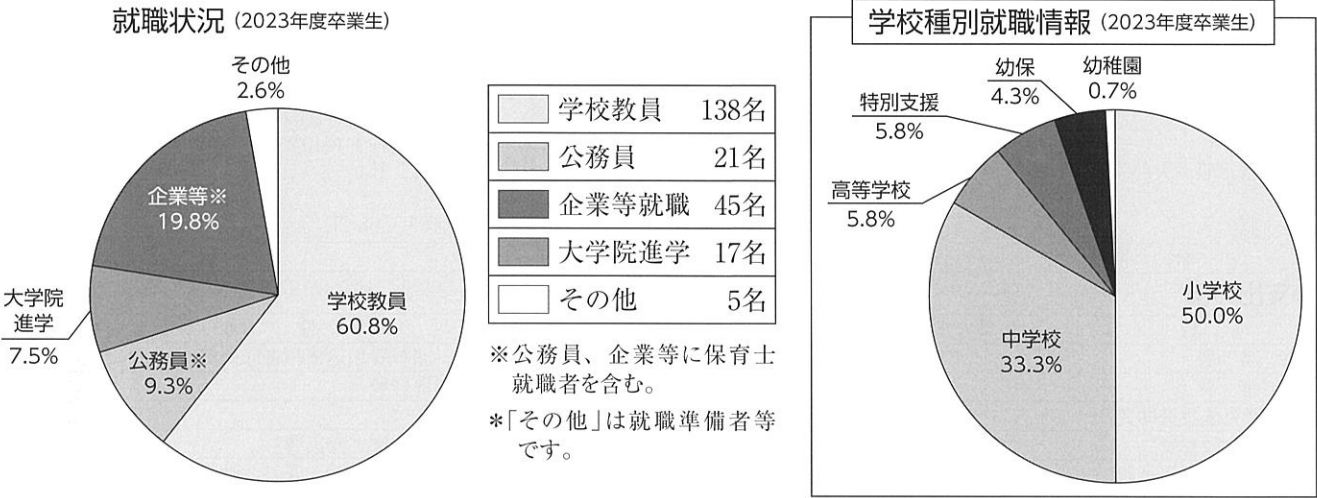
一か月という短い期間の留学でしたが、私には本当に大きな意味がありました。多様な価値観に触れる中で視野が広がり、英語力を鍛えることもでき、人生の中で貴重な時間となりました。留学を起点として、さらに国際交流や英語学習に力を入れて取り組み、将来教師として、世界に羽ばたくことの出来る人材の育成に貢献したいと思っています。



令和5年度卒業生就職状況一覧

卒業者数		教 員					公務員		企 業		合 計	未定者	大学院 進学	その他
		教員採用試験合格者		私学等	非常勤 講師等	合 計			保育士 (内数)	保育士 (内数)				
		滋賀県	他府県											
男 子	97	31	13	0	14	58	6	0	19	0	83	1	10	3
女 子	130	46	22	7	5	80	15	3	26	4	121	0	7	2
計	227	77	35	7	19	138	21	3	45	4	204	1	17	5
(比率)		33.9	15.4	3.1	8.4	60.8	9.3	1.3	19.8	1.8	89.9	0.4	7.5	2.2

卒業生227名(春卒4名を含む)の就職・進学状況



学校教育教員養成課程

○学校教員内訳

	学 校 種	計	男 子	女 子
1	小学校	69	24	45
2	中学校	46	28	18
3	高等学校	8	4	4
4	特別支援学校	8	2	6
5	幼保・こども園	6	0	6
6	幼稚園	1	0	1

○公務員

	事業所名等	計	男 子	女 子
1	厚生労働省京都労働局	1		1
2	法務省	1		1
3	滋賀県庁	4	2	2
4	滋賀県警察事務	1		1
5	大津市役所	2	1	1
6	草津市役所	1		1
7	彦根市役所	1		1
8	高島市役所	1		1
9	日野町役場	1	1	
10	京都市役所	1		1
11	与謝野町役場	1		1
12	高槻市役所	1	1	
13	豊岡市役所	1		1
14	姫路市消防局	1	1	
15	大津市立保育園	2		2
16	草津市立保育園	1		1

○大学院進学先内訳

	大 学 院 名	計	男 子	女 子
1	滋賀大学大学院	12	7	5
2	千葉大学大学院	1		1
3	金沢大学大学院	1	1	
4	神戸大学大学院	1		1
5	奈良教育大学大学院	1	1	
6	京都文教大学大学院	1	1	

○産業別・企業別内訳

製造業

	会 社 名	計	男 子	女 子
1	日本文教出版(株)	1	1	
2	デンカ(株)	1	1	
電気・ガス・熱供給・水道業				
3	(株)きんでん	1	1	
情報通信業				
4	バルデス(株)	1	1	
5	(有)ドラゴンエンタテインメント	1	1	
6	(株)アルファ・ウェーブ	1	1	
運輸業、郵便業				
7	Starlux Airlines	1		1
8	西日本旅客鉄道(株)	1		1
卸売業、小売業				
9	(株)グラシアス	1	1	
10	(株)ZOZO	1		1
11	(株)アダストリア	1		1
12	(株)パル	1		1
13	サカイサイクル(株)	1	1	
14	(株)ヤマダホールディングス	1	1	

金融業、保険業

15	トヨタファイナンス(株)	1		1
16	損保ジャパン(株)	1	1	
学術研究、専門・技術サービス業				
17	(株)博報堂	1		1
宿泊業・飲食サービス業				
18	(株)西武・プリンスホテルズワールド	1		1
19	ケーヨーリポート開発合同会社	1		1
生活関連サービス業、娯楽業				
20	(株)テニスラウンジ	1	1	
21	アイ・ケイ・ケイホールディングス(株)	1		1
教育、学習支援業				
22	(株)TOMONI	1	1	
23	志門塾	1	1	
24	独立行政法人国立青少年教育復興機構	1		1
25	(株)エム・ジェイホーム	1		1
26	(株)臨海	1	1	
27	(株)ケーイーシー	1	1	
社会保険・社会福祉・介護事業				
28	小規模保育施設 えんじえるはうす	1		1
29	日本保育サービス	1		1
30	カワテイノベーション(株)つばみ保育園	1		1
31	社会福祉法人敬仁会	1		1

社会福祉法人 善照学園

32	社会福祉法人 善照学園	1		1
33	(株)日本保育サービス	1		1
34	社会福祉法人 博光福祉会	1		1
サービス業				
35	(株)ウィルグループ	1	1	
36	レバレジーズ(株)	1	1	
37	(株)NAC	1	1	
38	パーソルプロセス&テクノロジー(株)	1		1
39	(株)ワークポート	2		2
40	(株)irodas	1		1
自営業				
41	自営業	2	1	1
上記以外				
42	上記以外	2		2

	就 職 先 等	計	男 子	女 子
	* 学校教員	138	58	80
	* 公務員	21	6	15
	* 企業等	45	19	26
	* 大学院進学	17	10	7
	* その他	6	4	2
	合 計	227	97	130

後援会理事会よりご報告

4月4日(木)4年ぶりに教育学部後援会総会を入学式後に開催しました。多数の皆様のご出席をいただきありがとうございました。

総会は、教育学部長の挨拶から始まり、後援会会長の進行のもと、「令和5年度決算、令和6年度予算案」、「令和6年度役員改選」の審議、令和6年度教育学部行事予定、卒業生の就職状況、4年間のカリキュラム等についての報告がありました。総会で承認いただきました「令和6年度役員改選」及び「令和5年度決算、令和6年度予算案」をあらためて掲載させていただきます。

令和5年度 教育学部後援会 会計決算書（一般会計）

◇収入の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差引過不足額	備 考
前年度繰越額	1,522,983	1,522,983	0	会費 学部生 @41,000 × 233 名 = 9,553,000 円 大学院生 @20,500 × 22 名 = 451,000 円 専攻科生 @10,250 × 8 名 = 82,000 円 合 計 10,086,000 円
会 費 収 入	10,086,000	10,086,000	0	
雑 収 入	64	68	4	(利息収入 68 円)
合 計	11,609,047	11,609,051	4	

◇支出の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差引過不足額	備 考
事 務 費	50,000	18,300	31,700	郵送費、諸経費振込依頼書印刷費
会 議 費	150,000	86,832	63,168	理事会開催経費
研究施設援助費	50,000	0	50,000	
学生教養費	550,000	548,512	1,488	学生用雑誌・図書充実費
学生厚生福祉費	1,950,000	1,932,210	17,790	対外試合交通費援助、課外活動物品援助等
就職幹旋費	1,500,000	1,434,005	65,995	教職セミナー援助、就職関係図書・就職体験記原稿筆耕援助等
キャリア支援費	2,800,000	2,800,000	0	キャリア支援担当教員人件費
学部援助費	200,000	119,498	80,502	教育実習援助、衛生用具の購入、構内整備関係援助
学部行事費	900,000	324,900	575,100	オープンキャンパスへの援助、構内美化作業に係る援助、卒業祝賀会への援助
国際交流事業費	1,500,000	1,061,216	438,784	海外実習事業援助・国際交流事業関連援助
学部広報費	100,000	95,700	4,300	後援会だより
学生表彰費	100,000	80,000	20,000	表彰者副賞代
積 立 金	1,000,000	1,000,000	0	積立金会計へ拠出
情報教育充実費	500,000	500,000	0	情報教育充実会計へ拠出
予 備 費	259,047	0	259,047	
合 計	11,609,047	10,001,173	1,607,874	

収入合計 11,609,051 円 — 支出合計 10,001,173 円 = 1,607,878 円 (次年度へ繰越)

令和5年度 教育学部後援会 会計決算書（積立金会計）

◇収入の部

(単位：円)

摘 要	金 額	備 考
前年度繰越額	1,420,862	
一般会計より受入	1,000,000	
利息収入	19	
合 計	2,420,881	

◇支出の部

(単位：円)

摘 要	金 額	備 考
課外活動用物品・設備等	1,000,770	救助艇購入に係る支援
合 計		

収入合計 2,420,881 円 — 支出合計 1,000,770 円 = 1,420,111 円 (次年度へ繰越)

令和5年度 教育学部後援会 会計決算書（情報教育充実会計）

◇収入の部

(単位：円)

摘 要	金 額	備 考
前年度繰越額	653,913	
一般会計より受入	500,000	
利息収入	9	
合 計	1,153,922	

◇支出の部

(単位：円)

摘 要	金 額	備 考
情報教育充実のための整備	331,542	ウイルスソフト契約に係る経費
合 計	331,542	

収入合計 1,153,922 円 — 支出合計 331,542 円 = 822,380 円 (次年度へ繰越)

令和6年度 後援会役員名簿

職 名	氏 名	職 名	氏 名	職 名	氏 名
会 長	桑 原 正 樹	監 事	中 野 小百合	理 事	松 本 直 美
副 会 長	内 山 俊 恵	監 事	山 路 久 恵	理 事	岡 田 瞳
副 会 長	尾 松 梨 絵	理 事	今 井 百合子	理 事	小 嶋 義 昭
常任理事	菊 池 有 紀	理 事	井 上 亜 希	理 事	中 尾 朋 子
常任理事	川 崎 寿 美	理 事	大 谷 紀 子	理 事	三 浦 英 樹
幹 事	湯 本 五 月	理 事	大 西 麻 子		

令和6年度 教育学部後援会 会計予算書（一般会計）

◇収入の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	備 考
前年度繰越額	1,607,878	会費 学部生 @41,000 × 223 名 = 9,143,000 円 大学院生 @20,500 × 22 名 = 451,000 円 専攻科生 @10,250 × 7 名 = 71,750 円 合 計 9,665,750 円
会 費 収 入	9,665,750	
雑 収 入	68	利息収入
合 計	11,273,696	

◇支出の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	備 考
事 務 費	50,000	通信費、振込依頼書印刷
会 議 費	150,000	理事会及び総会等開催経費
学 部 後 援 会 費	研究施設援助費	50,000 教育関係各種団体会費、学会等開催等援助費
	学生教養費	550,000 学生用雑誌・図書充実費
	学生厚生福祉費	1,950,000 課外活動物品・交通費援助、大学祭経費等補助
	就職斡旋費	1,500,000 教職セミナー援助、就職関係図書・就職体験記原稿筆耕援助等
	キャリア支援費	2,800,000 キャリア支援教員人件費
	学部援助費	200,000 教育実習援助、衛生用具の購入・各種イベント援助等
	学部行事費	900,000 オープンキャンパス・構内美化作業・卒業祝賀パーティー補助等
	国際交流事業費	1,300,000 海外研修助成、海外実習事業支援・国際交流事業関連援助
	学部広報費	100,000 後援会だより
	学生表彰費	100,000 表彰者副賞代等
積 立 金	1,000,000	積立金会計へ拠出
情報教育充実費	500,000	情報教育充実会計へ拠出
予 備 費	123,696	
合 計	11,273,696	

令和6年度 教育学部後援会 会計予算書（積立金会計）

◇収入の部

(単位：円)

◇支出の部

(単位：円)

摘 要	予 算 額	備 考
前年度繰越額	1,420,111	
一般会計より受入	1,000,000	
利息収入	19	
合 計	2,420,130	

摘 要	予 算 額	備 考
課外活動用物品・設備等	2,420,130	課外活動関係物品購入援助等
合 計	2,420,130	

令和6年度 教育学部後援会 会計予算書（情報教育充実会計）

◇収入の部

(単位：円)

◇支出の部

(単位：円)

摘 要	予 算 額	備 考
前年度繰越額	822,380	
一般会計より受入	500,000	
利息収入	9	
合 計	1,322,389	

摘 要	予 算 額	備 考
情報教育充実のための整備	1,322,389	ウイルスソフト契約に係る経費、情報機器等充実
合 計	1,322,389	

令和6年度 学年暦等・就職・教育実習・入試関係行事

年月	学年暦・学生行事等 日 事 項 等	就職関係行事等 日 事 項 等	教育実習関係行事等 日 事 項 等	入学試験関係行事等 日 事 項 等
2024	1 学年始			
	1・3・4 学生定期健康診断			
	4 入学式			
4	5 新入生オリエンテーション			
	6 さくら咲くツアー	11・18・25 教職実践論Ⅱ(第1～3回)小論文指導 11・12・18 教職実践論Ⅱ(第1～3回)【幼保】小論文指導		
	8 春学期授業開始			
	29 授業実施日			
5		2・9・16・23 教職実践論Ⅱ(第4～7回)小論文面接等指導 9・16・24 教職実践論Ⅱ(第4～7回)【幼保】面接等指導	中旬 母校・協力校教育実習(7月上旬)	
	31 開学記念日		下旬 地域教育実習(6月中旬までの2週間)	25 大学院説明会
6	3 実習Weeks(6/21まで)	6 教職実践論Ⅱ(第8回)面接等指導 7・14・28 教職実践論Ⅱ(第8～10回)【幼保】面接指導	上旬 附属小中実習(中旬までの2週間) 〃 主免特別支援実習(3週間)	
	8 開学祭	21 直前模擬面接【幼保】		24～27 大学院入試(7月)願書受付
	29 振替授業日(金曜日の授業)			
7	13・20 補講日(全学)	5・11 教職実践論Ⅱ(第11～12回)模擬保育等指導 8・11・12 教職実践論Ⅱ(第9～11回)模擬授業等指導 (教員採用試験二次試験対策講座)		6 大学院入試(7月) 12 大学院入試(7月)合格者発表
	15 授業実施日	18 直前模擬面接		
	22 春学期授業終了			
	23～ 春学期定期試験(7/30まで)			
	31 夏季休業開始			
8	3 オープンキャンパス			3 大学院説明会
	14～16 夏季一斉休業			
9			上旬 地域教育実習(10月下旬までの2週間) 〃 附属小中実習(下旬までの2週間) 〃 附属幼実習(4週間) 〃 副免特別支援実習(3週間) 〃 母校・協力校教育実習(11月上旬)	2～6 総合型選抜願書受付
		6 教職実践論Ⅱ(第13回)【幼保】二次対策		
	27 春学期卒業式・学位授与式			21 総合型選抜 第1次選抜
	30 夏季休業終了			28 大学院説明会
10	1 秋学期授業開始	4 3回生就職・教採ガイダンス		11 総合型選抜 第1次選抜通過者発表 11～17 大学院入試(10月)願書受付
	14 授業実施日			25～30 専攻科入試願書受付 25～30 私費外国人留学生選抜願書受付 26 大学院入試(10月)
	19 振替授業日(金曜日の授業)			
11	4 授業実施日	2 教員養成研修		1～7 学校推薦型・帰国生徒・社会人選抜願書受付
	9・10 大学祭	中旬 教育委員会主催教員採用試験講師登録説明会		15 大学院入試(10月)合格者発表 23 学校推薦型・帰国生徒・社会人選抜 24 総合型選抜 第2次選抜 24 専攻科入試 27 私費外国人留学生選抜
12		未定 教職実践論Ⅰ(第1回) 未定 教育講演会 未定 滋賀県教員採用説明会		13 学校推薦型・帰国生徒・社会人選抜・総合型選抜 第2次選抜・専攻科入試合格発表
	24 冬季休業開始(1/5まで)			
2025	6 授業再開			
1	11・25 補講日(全学)			18・19 大学入学共通テスト 24 私費外国人留学生選抜合格者発表
	27 秋学期授業終了			27～2/5 前期・後期日程願書受付
	28～ 秋学期定期試験(2/4まで)			
2		上旬～中旬 教職実践論Ⅰ(第2～4回) 中旬～下旬 春季教職セミナー①～④		19 総合型・学校推薦型・帰国生徒・社会人・私費留選抜入学手続 25・26 前期日程入学試験
3		上旬 春季教職セミナー⑤～⑩ 上旬 教職実践論Ⅰ(第5回)		6 前期日程合格者発表 12 後期日程入学試験 14 前期日程・大学院(7月10月)入学手続 20 後期日程合格者発表 27 後期日程・専攻科入学手続
	26 卒業式・学位授与式			
	31 学年終			

先輩たちの
長い道のり

就活

合格体験記【高等学校】

滋賀県 Aさん (国語専攻)

1. はじめに

まずは、体験記を書くという貴重な機会をいただきましたことを心より感謝いたします。私が教員採用試験を乗り越えることができたのは、大学の先生方とともに合格を目指す仲間の支えがあったからです。この体験記が、これから試験に臨む皆さんの力に少しでもなれば嬉しく思います。

2. 教師という職を選ぶまで

(校種の選択について)

ここでは、主に校種の選択について書かせていただきます。入学当初は、漠然と国語科の教師になりたいと思っていました。そして、選択肢を広げるためにと副免に小学校の免許を選択しました。実際に、講義や教育実習、スクールサポーター活動などを経験するなかでそれぞれの校種に違った魅力を感じるようになり、3回生の3月頃まで校種の選択

に悩みました。最終的に校種の決定に繋がったのは、原点に帰って考えることでした。私の場合は、高校生の頃、進路に悩んだ際に先生に支えてもらった経験と、これまで関わった子どもたちの様子から国語を学ぶ面白さを高校生に伝えたいと思ったことの二つが決め手となりました。

皆さんの中には、受験する校種や教職に進むかどうか迷っている方もいらっしゃるかもしれません。そんなときはぜひ、教師を目指した原点を振り返って考えてみてください。また、校種を早く決めなければと焦っている方もいらっしゃるかもしれませんが、確かに早期に校種を決めることができれば、その分勉強に専念することができます。しかし、悩みながら自分を見つめ直す時間も、他校種の勉強をする時間も、すべて試験に繋がるので、まずはじっくりと考えてみてください。

3. 試験項目とその対策

(1) 一次試験の項目

〈1日目〉

① 小論文

② 筆記試験…専門科目

③ 筆記試験…教職教養・一般教養

(推薦の場合はいずれも免除)

〈2日目〉

① 集団討論

② 集団面接

(2) 一次試験の対策

【小論文】

小論文は、大学受験までに経験したことがある方も少なくないかと思えます。しかし、教員採用試験の小論文は、大学受験までのそれとは少し異なります。当たり前のことではありますが、より専門的な内容を問われ、限られた時間の中で自分の考えを分かりやすく書きあげる難しさがあります。

滋賀大学では、教職実践論で小論文を練習することができます。小論文の対策で大切なことは、自分の小論文を誰かに見てもらうことです。実際に、仲間同士で読み合って意見交流を行うこともありました。自分一人だと狭まる視野も、他者を通してとでぐっと広がるのでおすすめです。また、小論文では添削を受けて書き直すことも大切だと言われることがあります。他の対策に追われていると書き直しまで手が回らないことも多いです。そんなとき私は、題に対しての自分の考えや添削を受けてのポイントをノートにまとめ、見直すようにしていました。

なお、教職実践論とは、3回生の12月頃から4回生の8月頃まで行わ

れる講義です。必修ではありませんが、教員採用試験の受験を目指す多くの人が受講していました。経験豊富な滋賀大のOBの方や教育関係の方に指導いただき、教職教養に関するものから小論文、集団討論、模擬授業まで幅広い対策ができるものです。教職を目指す方は、受講することをおすすめします。

【筆記試験】

筆記試験の勉強を本格的に始めたのは、3回生の2月頃でした。筆記試験は、一般教養と教職教養、専門科目に分かれています。私は、学内推薦をいただくことができたため、最終的には専門科目のみの受験となりましたが、試験当日までの流れを主に書かせていただきます。

筆記試験の対策は、教職教養と一般教養を中心に始めました。理由としては、小論文や集団面接に教職教養の知識が関わるため復習の必要があったこと、範囲が広いため早く取り組まないと困ると思ったこと、試験直前の時期は専門科目に集中したかったことの三つが挙げられます。4月末には学内推薦をいただくことができたため、ここからは専門科目を集中して勉強することができました。専門科目の勉強は、教科によってそれぞれだと思うのですが、演習

だけでなく基礎を大切に復習すること
も心掛けていました。

また、全ての筆記試験において自分
が受験する都道府県の出題傾向を
確認しておくことが重要です。出題
傾向を知ること、分野ごとの勉強
時間の配分を調整することができ
たり、少し気持ちに余裕を持つことが
できたりすると思います。

【集団討論・面接】

集団討論・面接の対策は、教職実
践論に加えて、先生にお願いして見
ていただく人が多いと思います。高
等学校を志望する人は小中学校の志
望者よりは少ないですが、教職実践
論を通して顔見知りになれます。同
校種での練習は実践的でとても力に
なりますが、ときには校種を問わな
いで一緒に練習することもおすす
めします。考え方や取り組みの姿勢に
校種ごとに違いが見られるため、客
観的に自分を見つめ直すことに繋
がったり、参考にしたりすることが
できるからです。

また、集団討論・面接の対策では、
毎回本番を意識することを大切に
していました。特に大学の仲間同士の
練習で忘れがちになるのが、本番は
学生だけでなく講師の方々と一緒に
なる可能性があるということです。
実際、私が受けた面接も学生は私

だけで複数の講師の方と一緒に
なりました。経験が豊富な講師の方と一
緒に面接を受けることは不安になる
かもしれませんが、日頃の練習から
様々な状況を想定しておくことで、
自信を持って本番に臨むことができ
ると思います。

(3) 二次試験の項目とその対策

① 個人面接

② 模擬授業

【個人面接】

個人面接対策は、一次試験の集団
面接の練習と大きくは変わりませ
ん。ただし、答えるのが自分だけな
ので端的に自分の意見を言うこと
と、主張に一貫性を持つことを心掛
けました。

【模擬授業】

模擬授業の対策が一番難しかった
ように思います。国語科は、毎年異
なる作品（多くは古文）の授業を行
うことになるので、文法などの知識
を確認するだけでなく、実際に作品
を読んで勉強することに時間の多く
を使いました。作品を勉強する際
は、どのような授業をするか構想を
考えることを心掛けましたが、実際
に黒板を使って模擬授業をする練習
はほとんど行えませんでした。

模擬授業の対策でも可能な限り、
仲間同士で見せ合うことをおすす
めします。私は一度しかできません
でしたが、相手の様子から見て学び、
互いにアドバイスし合えるよい機会
になると思います。

4. さいごに

ここまで読みいただき、ありが
とうございました。教員採用試験の
勉強は約半年以上と長い戦いになり
ます。途中しんどい思いをすること
もあるかと思いますが、そんなとき
は同じ教職を目指す仲間と支え合
いながら乗り越えて行ってください。
応援しています。

合格体験記【特別支援学校】

滋賀県Cさん(障害児教育専攻)

1. はじめに

私が教員という道を選び、内定を
いただくまでの経験をお伝えする機
会をいただけたことを感謝いたしま
す。私の経験が、今後採用試験を受
ける方にとって少しでも力になるこ
とができれば幸いです。就職される
方一人ひとりが望む道へ進まれるこ
とを心から祈っております。

2. 教師という職を選ぶまで

私は元々保育士を目指しておりま
した。1回生の専攻決めの際に、幼
児教育専攻に行くか障害児教育専攻
に行くか迷いましたが、専攻紹介の
ビデオの中で「障害児教育は教育
の原点である」ということを聞い
て、興味を持ち、障害児教育専攻に
入ることを決めました。障害児教育
の授業を受けていく中で、教師と障
害のある子どもたちとの実践記録を
学ぶことがあり、その中で、子ども
たちが大人や仲間との関わり合いの
中で、生き生きと変わっていく話や
ありたい姿へと発達していく話があ
りました。しかし、それは簡単なこ
とではなくて、それまでには教員同
士でその子にとってどんなことが大
切なのか、どんな教育が必要なのか
ということを保護者さんや関係機関
とも繋がりながら、語り合い、実践
を重ねていった先の話であることも
知りました。その子どもにとって必
要な教育を同僚と語り合いながらた
くさん考えて実践していくことはと
ても大変だろうけど、そうした関わ
り合いの中で子どもたちの成長を見
届けることができたならば、それは
とてもやりがいのある仕事なのでは
ないかと思い、特別支援学校教諭と
いう道に少しずつ進路が傾いていき
ました。最終的に特別支援学校教諭
になると決めたのは、3回生の教育

実習を経験してからでした。言葉でのコミュニケーションが難しい子どもと関わる中で、悩むこともありましたが、心が通じ合う瞬間があり、とても嬉しかったことを覚えています。こうした経験から、特別支援学校教諭を目指すことを決めました。

3. 試験項目とその対策

(1) 一次試験の項目

〈1日目〉

① 小論文

② 専門科目

③ 教職教養・一般教養

〈2日目〉

① 集団討論

② 集団面接

筆記試験

(2) 一次試験の対策

【小論文】

小論文対策は、教職実践論での毎週の対策を基本として、それに加えて1ヶ月前頃からは週に1回、個人的に小論文を練習していました。意識したことは、自分の型を早めにする事です。教員採用試験での小論文は、大学入試等で書く小論文とは、書き方が違っていたり、独特の表現があったりします。教職実践論で配られた小論文対策のテキストを見て、章の立て方や文末の表現を自

分はこれにしよう決めて、それを意識して毎回小論文を書いていました。最初は時間がかかると思いますが、あまり気にせず、自分の納得いく書き方・内容を研究して、徐々に時間を気にして書けるようになっていくと思います。また、小論文は、テーマにあることを知らないで書くことが難しいので、教育に関する時事ネタについては、ある程度調べておいて自分なりの考えを持つておくことが大切だと思います。

【筆記試験】

教員採用試験を受けると決めてから、3回生の12月頃に一般教養と教職教養、特別支援教育の専門の参考書を買いました。しかし、実際に本腰を入れて対策を始めたのは、4回生の4月になってからでした。結果的に、私は学内推薦を頂けたので、一般教養と教職教養を途中から勉強する必要がなくなり、専門の勉強に集中できてよかったのですが、筆記試験対策を始めるのは正直遅かったなと思います。3回生の2月3月は春休みで時間が比較的作りやすいと思うので、この期間に筆記試験対策を進められると、大きな強みになると思います。

専門である特別支援教育の筆記試験対策についてですが、私は勉強し

たことを整理しながら覚えることを大切にしていました。具体的には、3つ大切にしたことがあります。1

つ目は、スマホの復習アプリ（忘却度曲線に基づいて復習のタイミングを知らせてくれるアプリ）を使って、復習することです。一度覚えた内容は復習しなければすぐに忘れてしまいますが、適度なタイミングで復習することで、忘れにくくなります。復習は面白みが少なく、面倒ではありますが、やってみると本当に忘れにくくなって効果を実感できるので、おすすめの勉強法です。2つ目は、覚えにくい内容を自分なりに整理して勉強することです。参考書に書いてあることをそのまま覚えようとしても中々覚えられないことが自分はあるので、参考書に情報を書き加えて分かりやすくしたり、ごちゃごちゃしているものはPCを使って表に整理してそれを印刷して振り返ったりと、知識を整理しながら覚えることを大切にしています。3つ目は、友達と一緒に問題を出し合って勉強することです。一緒に勉強する仲間を作って、その仲間と問題を互いに出し合って勉強することで、楽しくアウトプットができ、より覚えやすくなりました。

特別支援教育の専門科目の問題は、法律や答申などの文章の穴埋め

問題もあるので、実際に声に出しながら勉強することをお勧めします。

【集団討論・面接】

集団討論と面接の練習では、如何に場数を踏んで、自分の引き出しを多く作れるかが大切になると思います。私は、教職実践論での練習に加えて、4月頃から専攻の先生にもお願いをして、友達を集めて集団討論や面接の練習をしていました。集団討論・面接用のノートを作って、その日のテーマや質問内容を記録しておき、練習後に自分なりの回答を一つずつ作って引き出しを増やしていきしました。最初は緊張しますが、何度も練習していくと少しずつ慣れて緊張しにくくなる気がします。本番は、学生だけでなく、企業に勤めていた人や講師で経験を積んだ人も一緒に受けることになるかと思いますが、緊張はきつと思うと思いますが、「何を聞かれたか」を忘れずに、落ち着いて発言できれば大丈夫だと思います。

(3) 二次試験の項目とその対策

① 個人面接

② 模擬授業

【個人面接】

集団討論・面接の練習と同時期に

専攻の先生にお願いをして、個人面接の練習もしてもらっていました。最初の志望動機は何度も修正しました。一人で考え込むよりも、先生にお願いしてアドバイスをもらって、自分の教職への想いが伝わるものとなるように内容を磨いていくことが大切だと思います。本番は、志望動機以外の質問もされると思いますが、あまり話しすぎず、簡潔に答えることを意識すると思います。個人面接は、答える内容ももちろん大切ですが、人とのコミュニケーションの仕方（話すときの目線や表情、分かりやすさ）なども重視されているように感じました。自分の知る限りでは、圧迫面接のようなものはなかったので、落ち着いて受け答えできたらいいと思います。

【模擬授業】

私が受けた特別支援教育の模擬授業は、緊張感のある試験でした。試験の直前に指導する内容が知らされて、授業を考えて実際に試験官の前に授業をするのですが、10人ほどの試験官が見ている中で授業をしなければなりません。授業後には、試験官から授業について、いくつか質問されますが、その質問が自分の場合は、指導内容が対象児童に合っているのかということと、ミスの

指摘でした。口調も個人面接とは違って厳しい口調だったので、かなり動揺しましたが、自分なりの考えをなんとか伝えることができました。振り返ると、授業内容はもちろん、きつめに質問されても自分なりの考えを伝えられるかというところも見られているのではないかと思います。そんな模擬授業の対策ですが、自分は友達と一緒に先生にお題を出してもらって模擬授業の練習をしてもらっていました。友達の授業を見ることが、子どもへの接し方や指導の仕方等とても勉強になりました。

4. さいごに

最後まで読んでくださりありがとうございます。私は元々緊張しやすく、人前に出るのが苦手だったので、面接を乗り越えられるか不安で仕方がなかったのですが、なんとか合格をいただけたのは、友達や先生が練習に付き合ってくれたからだと思います。しっかりと対策をすることが、場数を踏むことで自信がついて緊張もしにくくなると思います。周りの人の力も借りながら、しんどい時は息抜きをしながら、みなさまの教師になるという願いが叶うことを心から祈っています。

合格体験記【小学校】

京都市 Bさん（環境教育専攻）

1. はじめに

大学入学当初、私はあくまでも職業の1つとして教師を考えていたため、「教師になりたい」とそこまで強く希望していませんでした。しかし、実習や教師塾、スクールサポーター活動を通して、子どもたちと生活や学びをともにする楽しさを感じ、教育に興味を持ち、最終的に教員採用試験を受けることを決めました。

2. 教師という職を選ぶまで

教育関係の仕事に興味を持っていたため、3年生になってから学校教員だけでなく、塾をはじめとした教育系の一般企業も視野に入れないで動いていました。そのため、ITパスポート（京都市では加点対象）などの簡単に取得できる資格を取ることや、英語の勉強など、就活に向けて幅広く対応できるようにある程度の準備をしていました。進路選択に悩んでいる中、10月頃に京都市の教師塾に通うことを決めました。そこでの講義や高い志を持った仲間との学びの中で、これまでの自分になかった新たな考えや

教職の良さを再確認し、教職に就こうと決心しました。

3. 試験項目とその対策

(1) 一次試験の項目

〈1週目〉

① 小学校全科

② 教職教養・一般教養

〈2週目〉

① 個人面接

(2) 一次試験の対策

【筆記試験】

最終的に学内推薦を頂いたため筆記試験は免除になりましたが、学内推薦を頂くまでの勉強について紹介したいと思います。京都市の小学校全科では、例年学習指導要領からの出題が多い傾向にあったことから、『小学校新学習指導要領パズライン』（時事通信出版局）という参考書を用いて12月から勉強を始めました。これまで学習指導要領について詳しく学習してこなかったことから、とつぎにくく覚えるまでたくさんの時間がかかり、個人的に一番しんどかったです。全科の学習はある程度学習指導要領を覚えられた3月頃から本格的に勉強を始めました。学習指導要領の内容が理解できていたおかげで、全体の流れがある程度

筆記試験
(学内推薦の場合はいずれも免除)

わかり勉強がしやすく感じました。5月から京都市の過去問を解いたり、他の自治体の問題を解いたりしていました。

一般教養・教職教養に関しては、あまりにも範囲が広く、配点も30点分しかなかったため、行き帰りの電車のなかでしか勉強をしませんでした。

【個人面接】

京都市を受ける3人でグループをつくり4月頃から先生に指導していただきました。京都市では1分程度の場面指導があるため、その部分は特に入念にみていただきました。また、不祥事問題に関しても例年たくさん出題されるため、その部分についても先生方や友達と学んだことを随時共有していました。

(3) 二次試験の項目とその対策

① 集団討論

② 小論文

③ 模擬授業

【集団討論】

たくさんの人と練習することに越したことはないですが、二次試験で集団討論を行うのが京都市だけであつたため、3人で練習をしていました。自分達だけで練習することもありましたが、教職実践論とは別で

京都市に勤務されていた大学の先生にアポを取りに行つて練習をしていただきました。過去問を基に、4、5週ほど意見が出るまで練習を行うようにしていました。目を見ることやうなずきながら聞くこと、前の人意見を肯定し、実体験を混ぜて話すことなどを意識するようにしていました。また、京都市の集団討論では、挙手制で司会を立てる必要があります。私は練習を1度もしたことがありませんでしたが、誰も挙手しなかったのを司会をしました。グループで1つの答えを出さないといけないため、なかなか発言できていない受験生にも話をふるなどして、とにかくみんなの意見を聞いて、まとめることを意識しました。また、話がお題から逸れてはいけないため、「逸れた」と感じたタイミングで話を戻すような、体験を交えた意見を発言するように心がけました。司会には司会としての力量も必要になるため、もしものために少しぐらい練習をしてみてもいいかもしれません。

【小論文】

京都市では「学校教育の重点」が提示されており、例年そこから出題される傾向にあります。実践論で出される宿題で書く練習をし、一次試

験が終わつてからは本格的に、ここに書かれていることをお題として、自分で何度も書く練習をして、先生に添削していただきました。書こうと頭の中で思つていても、なかなか思うように書けなかったため、自分の中である程度の型を作るために週に2、3枚練習をしました。また、書いて終わるのではなく添削していただいた内容を基に書き直したり友達と見せ合ったりして、より良いものを作るように心がけていました。また、コンプライアンス問題についての記述が200文字程度で出されるので、教育基本法や教師としてのふるまい方について理解し、端的にまとめる練習をする必要があります。

【模擬授業】

京都市には「京都市スタンダード」とよばれる授業の指導案やポイントが書かれたものがあります。京都市総合教育センターで手に入れることができるので、模擬授業のテーマが発表された次の日に取りに行き、それを基に模擬授業を考案するようにしました。京都市では全員同じテーマで授業を行うため、十分練習をして臨める一方で、他の受験生との授業のクオリティーの差が一目でわかります。そのため、教材研究にたくさん時間をかけました。まずは単

元や本時の目標を決めるとともに、その後の授業の流れも踏まえたうえで授業を構成していきました。自分の好きなところを授業することができると子どもたちが主体的に思考を働かせ、学級全体の学びにつながるような授業を設定し本番まで練習しました。模擬授業の後、場面設定や時間配分の理由などの授業に関する質問に加え、エントリースシートに書いた内容や個人面接で書かれるような質問もされたため、その対策もしておいた方がいいと思います。

4. さいごに

受験する自治体の情報が大学にあまりない場合は自分達でまず集める必要があります。特に京都市教育委員会が大切にしている文言や教育観は知っている前提で質問されたりすることもあるので、そこまでチェックすることが合格のカギになると思います。

また、ボランティアなど何でもいので子どもたちと日々関わることも大切だと思います。そこで見た子供の姿や様子は自分の学びに繋がるだけでなく、面接や小論文の話題にもなるのでたくさんするといいいでしょう。

悔いの残らないように頑張ってください。

合格体験記「企業」

Dさん(初等体育専修)

1. はじめに

「就職活動」を行うにあたり、自分がやりたいことというのは、必ず考えることになると思います。しかし、誰もが将来やりたいことが明確になっっているわけではないと思います。ただし、社会人になるにあたって、何か一つやりたいことを見つめる必要があります。私も明確にやりたいことはありませんでしたが、自分の進路を考える中でなんとかやりたいことを見つけ出しました。

2. 志望理由

私が民間企業への就職を決めたきっかけは、定年退職までにどんな経験を行いたいかを考えたことです。

生涯一つの職業を極めるという道とさまざまな職業を経験する道があると思います。その中で教育学部に進学し、「教師」という職業を極める道をまず、考えました。しかし、実習先の先生や知り合いの教師の方などの様々な人の話を参考にすると

「教師」をずっと続けることよりも、他の道を経験することに魅力を感じ、民間企業への就職を考えました。また、損害保険ジャパン株式会社への就職を希望した理由としては、私が就職活動の軸としていた自分が成長できる環境であるか、という点において合致していると感じたからです。また、金融に興味があり、様々な金融関係の企業の説明会や面接を受けた中で魅力を感じたため、志望をしました。

3. 就職活動について

○合同企業説明会

どの企業がどんなことを行なっているのかということは、知らないことが多いと思います。そのため、説明会には、できる限り早めの時期に行くということが大切だと思います。

私はこのスタートが遅かったため、これから就職活動を行う人は3回生の年明け前ぐらいには行うこととお勧めします。就職支援会社が開催している大規模なものに行くと、大企業だけでなく、中小企業などあまり聞かない名前の企業などにも出会うことができます。そのような企業の説明も受けることで自分の視野も広がり、やりたいことを見つける手助けになると思います。

また、オンラインと対面での開催があります。対面での開催の方が様々な企業に出会えるという点では、良いと思いました。やりたいこと、やりたい職種が決まっているのであれば、オンラインでも問題は無いと思います。

○インターンシップ・企業説明会

私はやりたいことを決めることができたタイミングが3回生の3月だったため、時間があまりなく、インターンシップに参加することはありませんでした。

実際にどのような環境で働いているのかということを知る機会はありませんでした。そのため、明確にやりたいことがある人はすぐに参加すると良いと思います。必ずやらなければ、その企業に内定をもらうことができないというわけではないので、あくまで参考程度であるという意識でインターンシップのことは捉えておいていいのではないかと思います。

企業説明会は、個別であるため、合同説明会よりも詳しく知ることができます。これらは、面接での受け答えの参考となることが多いため、選考に参加するのであれば、その企業の説明会は必ず参加すべきであると思います。

また、選考に参加しようと思ひ、

説明会に参加したが、思っているようなものではなかったということもあるため、その時は無理に選考に参加するのではなく、途中で選考を辞退することも可能です。

4. スケジュール

4回生			3回生	
6月	5月	4月	3月	1~2月
・就職活動終了	・全ての選考が終了、内定をもらう、計6社	・初めての内定、面接継続	・ES提出、SPIを受ける ・説明会、面接開始	・合同説明会 ・オンライン説明会 ・個別説明会参加 ・志望する企業にエントリー、計14社

5. 就職活動上の注意

ESや履歴書は、自分をアピールすることがメインとなります。そのため、自分で文章を考えることも大切ですが、自分のアピールできるポイントはどこであるかということを中心に聞けるのも一つだと思います。そうすることで、自分が知らなかった自分の長所を知ることができるとあります。

また、相手が想像できる文章を書く必要があります。そのため、

書いた文章は誰かに必ず読んでもらうようにしてください。どんなに魅力がある出来事であったとしてもその魅力を伝えられなければ意味がありません。

面接では、ESや履歴書で書いたこと、その企業に関することを中心に質問が出されます。どの企業にどんなことを伝えていくか、その企業はどんなことを行なっているかは、面接前には必ず頭に入れ、面接に臨むと良いと思います。また、面接といっても面接官もフランクに話してくださる方が多いため、緊張しすぎることなく、ありのままの自分を見せられることが大切であると思います。また、伝えたいことを伝えられないということがあったと後悔することがあるかもしれないため、必ず最後に何か伝えたいことや質問は聞かれます。そこでしっかりと伝えなかつたことはアピールをすることを忘れないように面接前にこれだけは伝えたいということを頭に入れておくことも大切です。

また、教育学部生ということ、どうして民間企業を志望したのかということ、多くの企業で聞かれる質問であるため、そこでしっかりと魅力ある受け答えを用意しておくことは必要です。

6. さびに

就職活動を終えて感じたことは、教育学部生は情報量が少なく、自分で情報を集めなければ、知ることができないことが多いということです。そのため、就職について知っている先生、他大学や他学部の人、先輩に頼ることも必要になってくると思います。自分で進める中で不安も多いと思いますが、相談できる相手がいるとその不安も少し和らぐと思うので、1人で進めることなく誰かに相談しながら進めてください。

また、面接を行うにあたって普段からいろんな人と会話を多くしておくことは大切だと感じました。特にエピソードを話す時にしっかりと相手にわかりやすく伝えられることは普段から練習できることであると思うので、積極的にいろんなエピソードを普段から話すようにすると面接はうまくいくと思います。

就職活動を行うとうまくいかないことも出てくると思いますが、その企業とは縁がなかったのだと思いき、すぐに切り替えることも必要だと思います。目の前の面接一つ一つに集中し、結果に振り回されないようにして頑張ってください。

この合格体験記が少しでも皆さんの助けになれば幸いです。就職活動頑張ってください。

○授業・休業・退学等に関すること

教務係

TEL 077-537-7707

電子メール kyomu@edu.shiga-u.ac.jp

○学生生活、課外活動、授業料免除、奨学金、留学、就職等に関すること

学生・就職支援係

TEL 077-537-7708

電子メール soudan@edu.shiga-u.ac.jp

○大学院教育学研究科、特別支援教育専攻科の入試に関すること

入学試験係

TEL 077-537-7711

電子メール nyushi@edu.shiga-u.ac.jp

○健康に関すること

保健管理センター分室

TEL 077-537-7709

電子メール hoken@edu.shiga-u.ac.jp

○教育学部教員に関すること

総務係

TEL 077-537-7704

電子メール syomu@edu.shiga-u.ac.jp

○図書館（教育学部分館）の利用に関すること

情報管理サービス第二係

TEL 077-537-7710

電子メール tosy@edu.shiga-u.ac.jp

編集後記

今後、後援会だより「つるばみ」の内容を充実していくために、会員の皆様の感想や要望、後援会、教育学部に対する要望等、ご意見がございましたら下記までお聞かせください。

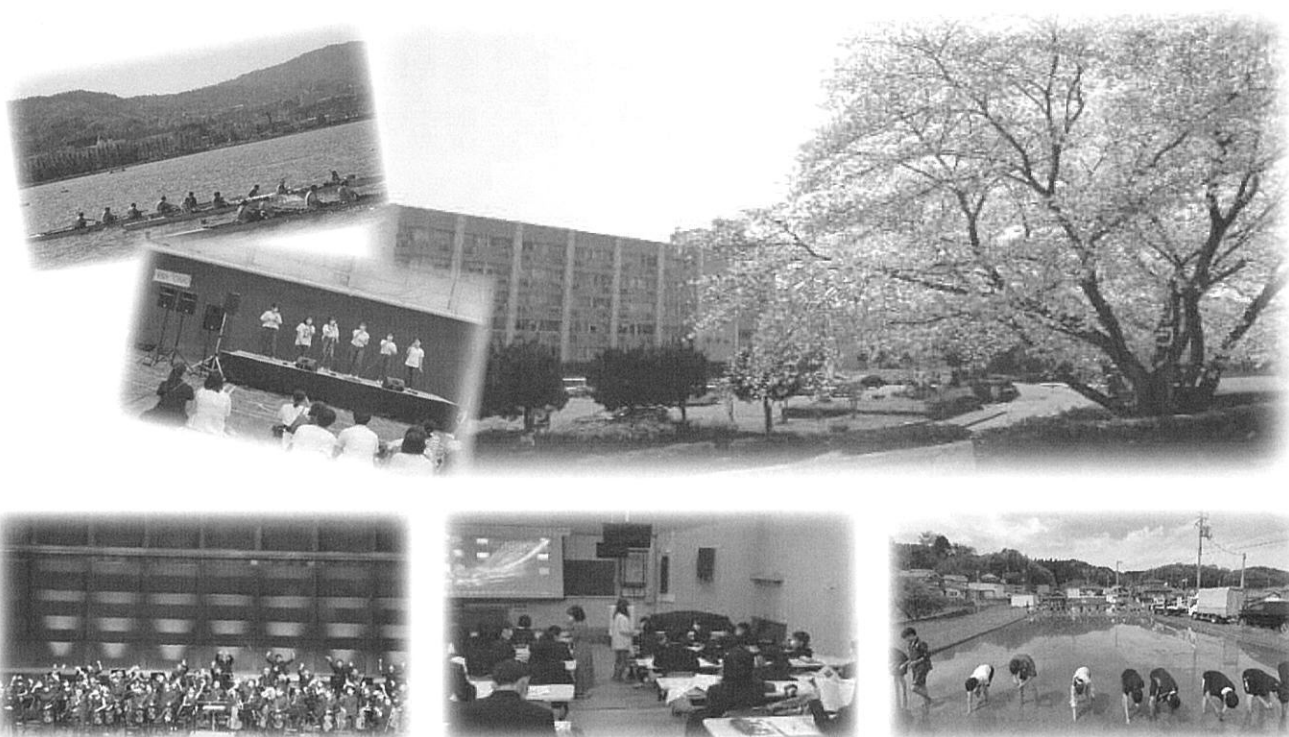
〒 520-0862 大津市平津二丁目 5-1

滋賀大学教育学部

電話 077-537-7703

FAX 077-537-7840

「滋賀大学教育学部基金」への寄附のお願い



令和5年度より新たに教育学部基金を設置いたしました。

この基金へは、教育学部の卒業生や保護者、大学関係者、附属学校園の関係者、広く一般の皆様方からのご寄附をお願いいたします。集まったご寄附は、その全額を教育学部（附属学校園も含む。）の教育研究環境の充実、学生の学修支援、教育環境整備、地域貢献、共同研究の促進、研究の高度化に加えて、150周年記念事業の実施のために活用させていただきます。皆様のご支援をお願い申し上げます。

＊税制上の優遇措置が受けられます。

滋賀大学教育学部基金 <https://www.edu.shiga-u.ac.jp/150thanniversary>

